

高等部後期現場実習を終えて

高等部3年3組 O. H

私は、後期現場実習で福島市泉にある「福島福祉カレッジ」で実習を行いました。2回目の実習だったので、前回よりも安心して取り組むことができました。

作業内容は、事務作業やパソコン作業、施設管理などです。パソコン作業では、動画編集を行い、効果音やテロップなどの入力を行いました。初めての作業でしたが、教えてもらいながら一人でもできるようになりました。操作中にミスをしないように注意して、集中して取り組みました。集中すると周りが見えなくなることを担当の方に教えていただき、周りへの気遣いも大切だと思いました。また、今回の実習では、指示されたことをメモに取ることを心がけました。苦手な仕事でもやってみようという気持ちで前向きに取り組むことの大切さも知りました。2週間、貴重な経験ができました。卒業後も学んできたことを発揮できるように学校生活も頑張っていきたいです。

高等部2年2組 S. Y

私は、後期現場実習で、伊達郡桑折町にある「エームサービスジャパン株式会社」で2週間実習をさせていただきました。仕事内容は、食事の盛り付け、食器洗いと片付け、調理場の清掃でした。食事の盛り付けでは、盛り付けする時に、食材や調味料を間違えないようにしなければならぬので、最初は職場の方のやり方を見ながら、同じように盛り付けをしました。11時からお客さんがたくさん来て込み合うので、盛り付けと提供、接客と忙しく、とても大変でした。勉強になったことは、仕事をする時に丁寧さを忘れずにスピードを上げること、周りを見て気づけるようにすることです。私は、高等部に入ってから初めての校外学習で何をすればよいか分からないことがあったので、今後は、自分から進んでやることを心がけ、学校生活に活かしていきたいです。

高等部2年担任 林 真実

今回の後期現場実習では、2年2組の9名が校外で実習をさせていただきました。ほとんどの生徒が2回目の校外での実習となり、前期現場実習での経験を生かして自分で設定した目標を達成しようと一生懸命取り組む姿が見られました。生徒一人一人にとって、とても充実した9日間だったと思います。

反省会の際に企業、福祉事業所の方から働く上で必要なことについてお話をいただいた中で、いくつか共通することがありました。1つ目は元気な挨拶や返事をする事、2つ目は最後まで作業に取り組む集中力を持つこと、最後の3つ目は素直に指示を聞いて作業に取り組むことです。当たり前のことですが、意外と忘れてしまいがちなことだと思います。基本的なことだからこそ、大切にしていかなければならないと感じました。

来年は3年生になり、卒業後の進路について具体的に考える時期がやってきます。生徒が卒業後の将来を見据えて周りの人と相談し、自己決定ができるように指導・支援していきたいと思っています。

高等部3年担任 芳賀 由佳子

今回の実習は、高等部3年生にとって進路決定につながる大切な実習でした。

生徒たちはこれまでの実習、生活態度を振り返り、明確な目標を持って実習に臨みました。各自がその目標に向かって精一杯取り組むことができた実習だったと思います。事業所の方とお話をする中で、働くために必要なことは、体力、どんな仕事も最後までやり遂げる根気強さ、そしてアドバイスを受け入れることのできる素直さであると改めて感じました。3年生は、様々な経験を通して、こうした力や態度がかなりついてきていると思いますが、改善しなければならない課題は、残り少ない学校生活の中で意識して取り組んでもらいたいです。また、校内実習では、カレンダー班を担当しました。折り目をつけなくて、一枚一枚丁寧にカレンダーを巻く作業でした。終始立ち仕事でしたが、最後まで真剣に取り組んでいる姿が印象的でした。何気に手にしていたカレンダーも、生徒たちのこうした取り組みがあることを知り、社会に貢献していることを実感することができました。生徒たちの地道な活動、頑張りをどんどん外部に発信していければと感じました。

中学部後期現場実習を終えて

中学部3年2組 K. H

11月5日から15日まで校内実習がありました。ぼくは、太陽祭で注文を受けた小・中・大の花台を木工班で作りました。やすりがけ、ドリルを使って穴をあける、材料を組み立てて花台を作る、最後に花台に塗装をして完成させました。

その中で材料にドリルを使って穴をあけて組み立てる作業が一番難しかったです。

ぼくは三年間木工班で花台を作りました。だいたい一人で花台を組み立てることができるようになりました。いろいろな道具の使い方もわかるようになりました。

校内実習はあまり楽しくありませんでしたが、友達となかよく実習できたのがよかったです。高等部では、クリーン活動班に入って、そうじのやり方を覚えたいです。

中学部3年1組 K. K

11月5日から15日まで僕は紙工班で2週間校内実習をしました。紙工班ではラミネート剥し、パルプちぎり、タオルたたみ、アクリル板拭き、紙すき、油取り作りなどの作業を行い、長い時間集中して作業するのは大変でしたが、クマ型メッセージカード、えびせんメモ帳、はがき、ポチ袋、油取りパックなどたくさんの製品を作ることができて嬉しかったです。

作業のなかで1番難しかったのは、パルプの計量です。袋に入れる量が決まっていて、詰めるパルプの量が多くても少なくても製品として売り物にならないので、毎回同じ量にするのがとても難しかったです。今回の実習で僕は大きな声で報告することの大切さや働くことの大変さを感じました。大きな声を出すのは苦手ですが、これから少しずつ大きな声で報告したり返事したりできるように頑張っていきたいです。

中学部教諭 末永 義明

11月5日（火）～15日（金）の9日間、校内実習を行いました。中学部では木工班、家庭生活班、紙工班の3つの作業班に分かれ、木工班では花台の製作を行い、家庭生活班では、コースター、ガーゼマスクの製作を行い、紙工班では、メモ帳やポチ袋、ポストカード、油とりの製作を行ってきました。

「長い時間集中して取り組むこと」「丁寧な言葉遣い、あいさつ、返事、報告ができること」「準備や片付けに自分から取り組むこと」「丁寧に製品を作ること」などの目標を立てて、働くとはどのようなことかを意識して活動しました。

実習を終えた生徒たちは、長時間の活動を体験し、働くことの厳しさや、丁寧に作った製品がたくさんできる喜びや達成感を得られたことと思います。普段の作業学習では経験できない貴重な体験ができました。新たな課題も発見する機会ともなりました。今後は、自分の目標や課題に向けてさらに努力を続けていって欲しいと思います。

保護者進路研修会に参加して

小等部保護者 齋藤 智美

今回は伊達市梁川町にある「すずらん工房」佐藤奈緒子代表の講演でした。

進路研修会は今回が初めての参加で、就労についての知識がなにもない状態でしたが、各サービスの種類や違いについての説明や、就労アセスメントについての説明もあり、とても分かりやすかったです。

我が子はまだ小学生。進路についてはまだまだ先の事と考えていましたが、お話を聞く中で、将来の自立に向けて、小さな頃からの家庭での親の関わり方がとても大切だと感じました。

今のうちから、我が子の出来る事、得意な事を見つけ、自信につなげ、自己肯定感を高めてあげたいと思いました。